

公立学校共済組合東北中央病院  
公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定

# 目 次

<b>第1 公立学校共済組合東北中央病院の基本情報</b>	1
1 医療機関名	1
2 開設主体	1
3 所在地	1
4 許可病床数及び稼働病床数	1
5 診療科目	1
6 職員数（平成28年度決算時数値）	1
<b>第2 現状と課題</b>	2
1 構想区域（村山構想区域）の現状	2
2 構想区域（村山構想区域）の課題	5
3 自施設（公立学校共済組合東北中央病院）の現状	6
4 自施設（公立学校共済組合東北中央病院）の課題	10
<b>第3 今後の方針</b>	13
1 地域において今後担うべき役割	13
2 今後持つべき病床機能	13
3 その他見直すべき点	14
<b>第4 具体的な計画</b>	14
1 4機能ごとの病床のあり方について	14
2 診療科の見直しについて	15
3 その他の数値目標について	15
<b>第5 その他</b>	16

**第1 公立学校共済組合東北中央病院の基本情報**

- 1 医療機関名 公立学校共済組合東北中央病院
- 2 開設主体 公立学校共済組合
- 3 所在地 山形県山形市和合町3丁目2番5号

4 許可病床数及び稼働病床数

(1) 病床の種別

	許可病床数	稼働病床数
一般病床	252床	252床

(2) 病床機能別 (平成28年度病床機能報告時の数値)

		許可病床数	稼働病床数
急性期病床	一般	160床	160床
	地域包括ケア	57床	57床
	人間ドック	35床	35床
合計		252床	252床

- 5 診療科目 内科、呼吸器内科、循環器科、消化器・肝臓内科、代謝内分泌科、外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科 (計15科)

6 職員数 (平成28年度決算時数値) (単位:人)

	常勤職員	非常勤職員	合計
医師	24.5	5.7	30.2
看護職員	162.6	27.5	190.1
専門職	53.2	16.1	69.3
事務職員	19.5	21.2	40.7
合計	259.8	70.5	330.3

注1) 上記数値は平成28年度決算数値である。

注2) 非常勤職員数は常勤換算後の値である。

## 第2 現状と課題

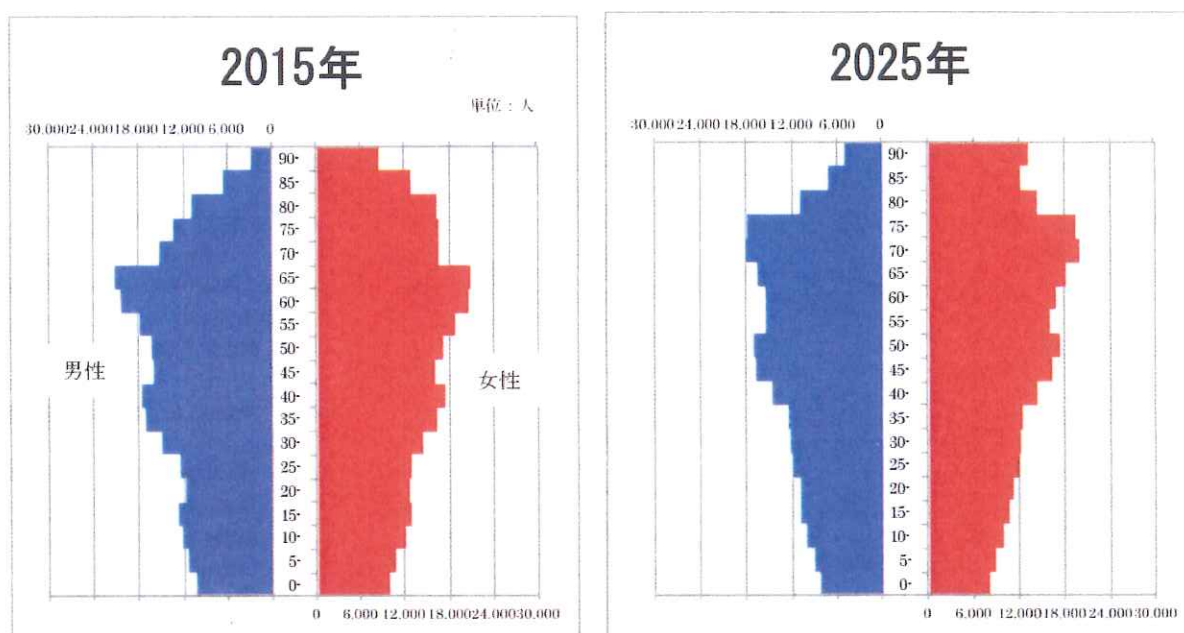
### 1 構想区域（村山構想区域）の現状

※ 山形県地域医療構想（H28年9月）より抜粋

#### （1）地域の人口及び高齢化の推移

- ・総人口は減少するが、年齢別にみると65歳以上の人口は2025年頃をピークに増加が見込まれ、高齢化の更なる進展が見込まれています。
- ・0～14歳の年少人口が大幅に減少するなど、少子化の更なる進展が見込まれています。
- ・人口構造の変化、将来人口の推計は下図1及び2のとおり。

〈図1〉人口構造の変化



〈図2〉村山構想区域の将来人口推計（単位：人）

	2015年	2025年
0～14歳	66,821	54,475 (82%)
15～64歳	317,016	276,728 (87%)
65～74歳	73,902	72,398 (98%)
75歳～	88,221	100,421 (114%)
全年齢	545,960	504,022 (92%)

注1) ( ) 内の数字は2015年比

#### （2）入院患者の推移（主な疾病別）

- ・人口は減少するものの、東南村山地域の後期高齢者が増加するため、2025年の入院患者の総数は増加が見込まれています。

- ・将来的には減少が見込まれるが、当面、肺炎、骨折、脳血管疾患、がん等の疾病の患者は増加していくことが見込まれます。
- ・若年人口の減少に伴い、妊娠・分娩による入院については減少率が大きくなることを見込まれます。

(3) 2025年における病床の必要量の推計結果

- ・現在の病床数（2015年7月1日許可病床数）と推計による必要病床数を比較すると、高度急性期・急性期病床が過剰となり、回復期病床が不足すると見込まれています。病床機能別の推計値は下図3及び4のとおり。

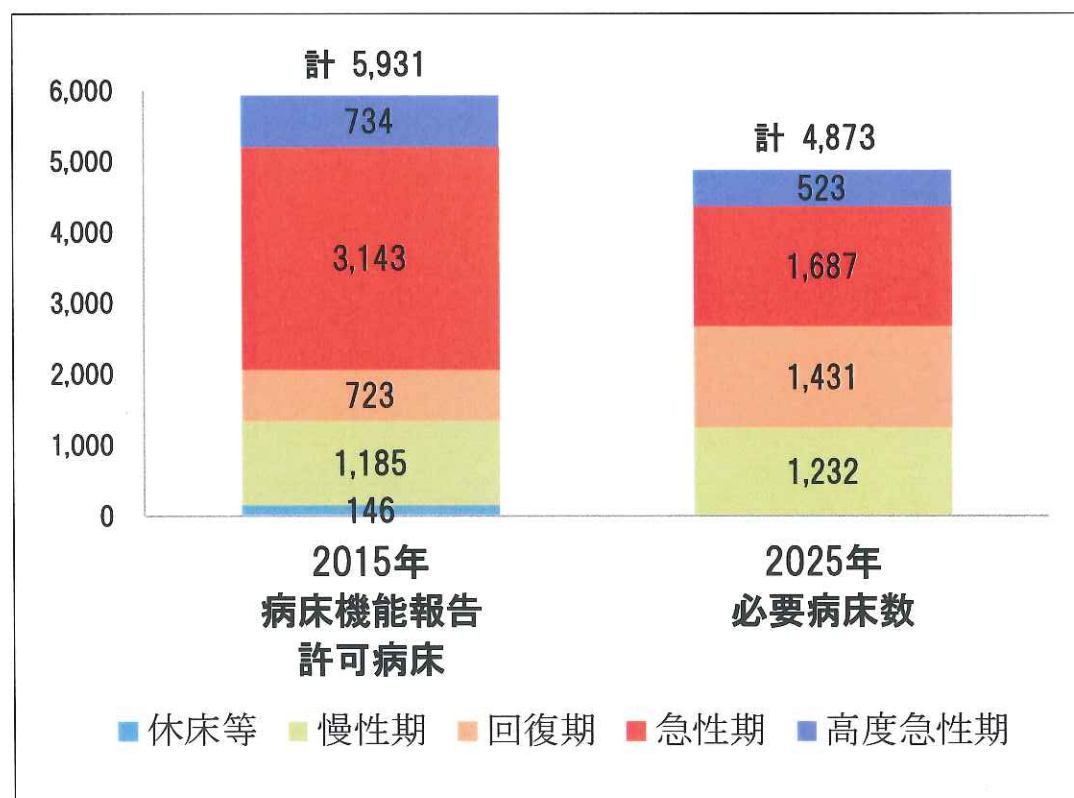
〈図3〉病床の必要量の推計結果（単位：床）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2015年	734	3,143	723	1,185	146	5,931
2025年	523	1,687	1,431	1,232	—	4,873
差	▲211	▲1,456	708	47	▲146	▲1,058

注1) 2015年 = 2015年7月1日現在の許可病床数。

注2) 2025年 = 山形県地域医療構想（平成28年9月）で示す推計値。

〈図4〉病床の必要量の推計結果グラフ（単位：床）



(4) 2025年における在宅医療等需要の推計結果

- ・在宅医療等需要については、2013年(4,937人)と2025年推計(5,653人)を比較すると、1日当たり716人増加すると見込まれます。

(5) 村山地域の医療需給の特徴等

① 医療施設の概況及び医療提供

- ・平成27年7月1日現在で、一般病床又は療養病床を有する医療施設は、計56施設(病院25施設、有床診療所31施設)です。
- ・三次医療機関として高度で特殊な医療、救急医療や専門性の高い医療を提供する病院が山形市内に多く集中しています。そのため、北村山及び西村山地域の救急医療や専門性の高い医療は、当該地域の基幹病院の他、山形市内の病院が担っている状況にあります。
- ・北村山及び西村山地域の入院患者数は現在においても減少傾向にあり、当該地域の病院では、既に病床利用率が低い医療機関もあります。
- ・肺がん、乳がん、肝がん、化学療法、放射線治療、超尿病、小児医療、周産期医療の入院患者については、最上及び置賜構想区域の患者を村山構想区域で受け入れている現状にあります。

② 患者の受療動向等(地域内での完結率等)

- ・がんの入院医療、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の入院医療は村山地域内での完結率が高い状況です。(地域内での完結率97.3%~100.0%)
- ・がんの入院医療のうち、肺がんや乳がんの入院医療、化学療法や放射線治療を受ける患者について、最上及び置賜構想区域から村山構想区域への流入がみられません。

③ 2025年の病床機能別の患者流出入

病床機能	患者流入状況
高度急性期	最上、置賜構想区域から村山構想区域への患者移動がみられる。
急性期	最上、置賜、庄内構想区域から村山構想区域への患者移動がみられる。
回復期	最上、置賜構想区域から村山構想区域への患者移動、村山構想区域から最上構想区域への患者移動がみられる。
慢性期	最上、置賜、庄内構想区域から村山構想区域への患者移動、村山構想区域から最上、置賜構想区域への患者移動がみられる。

## 2 構想区域（村山構想区域）の課題

※ 山形県地域医療構想（H28年9月）より抜粋

### （1）病床数の適正化、病床機能の分化と連携

- ・地域包括ケアシステムの構築を見据え、急性期病床から回復期病床への機能転換を進め、急性期医療を経過した患者の在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能を充実・強化していく必要があります。
- ・現在の病床数と推計による必要病床数を比較すると高度急性期、急性期が過剰であり、回復期が不足する状況にあるため、将来の医療需要に対応する体制整備が必要です。
- ・高度急性期・急性期を担う病院と回復期・慢性期を担う病院との機能分担や、地域包括ケアシステムを担う介護施設等との連携について、地域全体で検討を進める必要があります。
- ・非稼働病床や病床稼働率が低い病棟を有する病院においては、病床機能転換と病床規模の適正化を進める必要があります。
- ・限られた医療資源を効率的に活用するため、構想区域内で完結を目指すべきもの、構想区域を越えて連携すべきものを明確にし、各医療機関の機能の明確化や役割分担等、病床機能の分化・連携を進めていく必要があります。
- ・三次医療機関を中心に、特に高度又は専門性の高い医療等については、他構想区域との連携体制の構築が求められます。

### （2）在宅医療の拡充

- ・在宅医療等需要の大幅増加が見込まれることから、在宅医療に取り組む医療・介護事業所数を拡大する必要があります。
- ・入院時から在宅療養までの円滑な移行ができるよう、病院、診療所、介護施設等との間で、地域で共通の退院調整のルールを整備する必要があります。
- ・日常の療養生活の支援、急変時の対応、看取りの普及、在宅医療推進体制の強化、在宅医療・介護を支える人材の確保が求められています。

### （3）人材の確保と育成

- ・医師をはじめとし、薬剤師、看護師、その他コメディカルの人材確保・育成に取り組む必要があります。

### 3 自施設（公立学校共済組合東北中央病院）の現状

#### (1) 病院の理念・基本方針

##### 〈病院の理念〉

心温かい 信頼の医療

##### 〈基本方針〉

1. 良質・適切・安全な医療の提供
2. 患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明に信頼される医療の提供
3. 他の医療機関と連携し、地域医療と職域医療への貢献
4. 安らぎとあたたかみのある家庭的な療養環境の提供
5. 常に研修・研鑽にはげみ、洗練とした明るい職場環境の提供
6. 健全な病院経営

#### (2) 病院の施設基準等（平成 29 年 9 月 1 日現在）

- ・一般病棟入院基本料 10対1看護（3病棟160床）
- ・地域包括ケア病棟入院料1（1病棟57床）
- ・基本診療料施設基準 … 上記他15項目
- ・特掲診療料施設基準 … 47項目
- ・DPC対象病院
- ・救急告示病院（2次救急）
- ・臨床研修病院（協力型）
- ・病院機能評価認定 3rdG:Ver.1.1
- ・各種学会認定施設等 … 13項目

#### (3) 診療実績（平成 28 年度実績）

項目	実績数	備考
入院患者数（1日平均）	162.4名	人間ドック除く
外来患者数（1日平均）	400.6名	
病床利用率	74.8%	人間ドック除く
平均在院日数	23.1日	
紹介率	50.4%	
逆紹介率	56.3%	
救急患者数（年間）	1,356名	うち救急車288件
入院手術件数（年間）	1,728件	レプト請求件数
外来手術件数（年間）	606件	レプト請求件数



(4) 職員数 (平成 28 年度決算数値)

	常勤職員	非常勤職員	合 計
医 師	24.5	5.7	30.2
看護職員	162.6	27.5	190.1
専 門 職	53.2	16.1	69.3
事務職員	19.5	21.2	40.7
合 計	259.8	70.5	330.3

注1) 非常勤職員数は常勤換算後の値である。

(5) 当院の特徴等

- ・東北中央病院は山形市北東部の鈴川地区にあり、山形駅から直線距離で北東約 4km に位置しています。病院の開設は昭和 34 年で、その後の疾病構造の変化、医療技術の進歩、医療制度の改定、ニーズの多様化等に対応しながら、病院機能の転換等を重ねてきました。現在は、総合病院としての機能を有し、地域の中核病院の一つとして地域医療を担い、信頼される医療の提供に努めています。

・急性期医療の提供を基本とし、許可病床数は一般病床 252 床です。その内訳としては、一般急性期 160 床、地域包括ケア 57 床、人間ドック専用病床 35 床です。なお、平成 28 年度までの病床機能報告では全病床 (252 床) を急性期病床として報告しています。

- ・15 の診療科目を標榜しています。
- ・整形外科における脊椎疾患分野では専門性の高い医療を提供しています。頸部～腰部に関係する手術件数は年間 600 例を超え、全国でも有数の実績を持ち、村山地域内の医療機関等からの紹介患者をはじめ、山形県内又は全国から多くの患者さんに来院していただいています。
- ・消化器疾患の治療に関しても充実した体制が整っています。消化器内科と消化器疾患を専門とする外科の連携が図られており、内視鏡検査による病変の発見から、胃癌や大腸癌などの腹腔鏡下による外科的手術まで一貫した治療を行っています。また、消化器内科における内視鏡治療 (内視鏡的粘膜切除術及び内視鏡的粘膜下層剥離術) の評価も高く、他医療機関からの紹介患者さんも多く来院いただいています。
- ・乳腺疾患及び C 型肝炎の分野でも、専門医師による質の高い医療を提供しています。
- ・その他の各診療科についても、経験豊富な専門医師が診療にあたっており、地域住民に対しての医療を提供しています。呼吸器内科及び循環器科においては、それぞれに今後患者の増加が見込まれる呼吸不全や心不全などの高齢者に多い疾患にも対応しています。眼科では白内障手術をはじめ緑内障や斜視など幅広く各

種手術に取り組んでいます。耳鼻咽喉科では主にアレルギー性鼻炎と副鼻腔炎の診断と治療を専門としています。産婦人科では、不妊症及び生理痛の各専門外来を開設する他、婦人科検診も多く受け入れています。放射線科は3名の専門医師が院内患者と他医療機関等からの紹介患者の画像診断にあたっています。

- ・当院は公立学校共済組合の職域病院としての役割を担っており、公立学校教職員等の健康維持及び健康増進を目的に、健康管理事業及びメンタルヘルス相談事業等を行っています。なお、現在の間ドック専用病床 35 床の使用状況については、共済組合員の利用率が約 85%です。

(6) 当院における診療圏別患者数 (平成 28 年度実績)

区分 市町村名	入 院		外 来	
	実患者数(人)	構成比 (%)	実患者数(人)	構成比 (%)
山形市鈴川地区	582	12.3	12,498	20.1
その他山形市	1,812	38.2	24,856	40.1
山形市計	2,394	50.5	37,354	60.2
山 辺 町	104	2.2	800	1.3
中 山 町	52	1.1	595	1.0
上 山 市	211	4.5	1,989	3.2
天 童 市	361	7.6	5,865	9.4
北村山地域	528	11.1	5,961	9.6
西村山地域	332	7.0	3,445	5.6
その他村山地域計	1,588	33.5	18,655	30.1
村山地域計	3,982	84.0	56,009	90.3
最上地域	181	3.8	1,872	3.0
東南置賜地域	160	3.4	1,375	2.2
西置賜地域	119	2.5	1,261	2.0
庄内地域	71	1.5	349	0.6
山形県計	4,513	95.2	60,866	98.1
東北5県	139	2.9	726	1.2
他都道府県	92	1.9	436	0.7
合 計	4,744	100.0	62,028	100.0

(7) 当院が担う政策医療

- ・ 5 疾 病 : がん (消化器系がん、乳がん、肺がん、他)  
脳卒中 (回復期、維持期)  
急性心筋梗塞 (急性期、回復期)  
糖尿病 (初期安定期、専門治療、慢性合併症治療)
- ・ 5 事 業 : 救急医療 (2次救急、入院救急医療、初期救急医療、救命期後医療)  
災害時医療 (災害中長期の応援派遣、受入対応、他)
- ・ 在宅医療 : 退院支援、急変時の対応、施設及び関係機関との連携対応

(8) 当院の村山全域患者DPC病院シェア率

	全入院		救急搬送入院		予定入院手術有	
	患者数	シェア率	患者数	シェア率	患者数	シェア率
合 計	49,037	5.7%	6,868	2.5%	15,260	8.8%
01 神経	3,306	0.5%	1,274	0.6%	214	0.0%
02 眼科	1,644	4.5%	2	0.0%	1,357	5.2%
03 耳鼻	2,120	1.1%	129	3.1%	763	0.4%
04 呼吸器	5,613	4.0%	1,060	2.8%	346	0.0%
05 循環器	4,596	4.5%	855	1.5%	1,391	3.5%
06 消化器	11,039	8.8%	859	3.1%	4,480	12.5%
07 筋骨格	2,743	22.2%	142	15.5%	1,845	24.3%
08 皮膚	575	3.5%	47	0.0%	138	5.1%
09 乳房	790	16.1%	5	0.0%	448	22.1%
10 内分泌	1,169	0.7%	156	0.6%	190	1.6%
11 腎尿路	3,430	0.5%	226	1.8%	1,173	0.0%
12 女性	3,358	0.0%	109	0.0%	1,303	0.0%
13 血液	868	1.5%	86	4.7%	185	0.5%
14 新生児	1,225	0.0%	42	0.0%	214	0.0%
15 小児	873	1.7%	93	4.3%	1	0.0%
16 外傷	2,906	3.9%	1,106	3.3%	609	3.0%
17 精神	33	12.1%	20	15%	0	-
18 その他	398	2.8%	84	2.4%	117	0.0%
XX 不明	2,351	15.2%	573	2.6%	486	16.7%

※上記データは、地域医療構想に関するワーキンググループ (平成 28 年 2 月 16 日開催) の資料による。

#### (9) 他機関との連携

##### ◆ 連携する医療機関

区 分	連 携 機 関 等
病 院	山形大学医学部附属病院、山形県立中央病院、山形市立病院済生館、その他 主に村山構想区域内の各病院
診療所等	医療連携協力医登録数 165 村山構想区域内を主に県内の各所診療所等の医師

##### ◆ これまでに連携実績がある関係機関 (H29.09.01 現在)

区 分	機関数	所 在 等
居宅介護支援事業所	33 箇所	村山構想区域内、他県内
居宅サービス事業者	14 箇所	村山構想区域内、他県内
施 設	23 箇所	村山構想区域内、他県内
地域包括支援センター	15 箇所	村山構想区域内、他県内
地域密着型サービス事業者	12 箇所	村山構想区域内、他県内
病 院 (後方支援目的)	6 箇所	村山構想区域内、他県内

#### 4 自施設 (公立学校共済組合東北中央病院) の課題

##### (1) 地域における当院の位置付けと担う役割の確立

- ・ 山形市内に所在する病院の中で、当院の病院規模 (病床数) は 8 番目であり、中規模の病院に位置付けられます。他の大規模病院と比べた場合、診療科目の数、医療スタッフの人員数、医療設備及び施設等の面では劣勢であり、地域における当院の役割を明確にする必要があります。
- ・ 当院が目指す医療、求められる医療、実現可能な医療を整理し、将来に向けた当院のビジョン・方向性を定めなければなりません。そして、このことに関する院内のコンセンサスの一致が必要です。
- ・ 当院の位置付けと役割を、地域の中で広く認知されるための努力が必要です。
- ・ 当院に求められる位置付けと役割、持つべき病床機能及び適正な病床数等について、その時々での医療需要の変化に応じ、今後継続して慎重な検討を重ねる必要があります。

##### (2) 地域包括ケアシステムの構築推進に向けた対応

- ・ 地域医療連携室の体制拡充
- ・ 入退院支援の体制の充実

- ・紹介患者の受入体制の強化
- ・他の関係機関（医療機関、介護事業所、施設及び行政等）との連携推進

### （3）救急医療の受入体制

- ・当院は中規模病院ゆえに、救急需要の高い脳神経外科及び小児科がなく、医師1名体制の診療科も多いため、受入可能な救急医療に限りがあります。
- ・地域において救急医療に貢献するために、他医療機関と機能分化と連携強化が望まれます。

### （4）医師の負担軽減策及びチーム医療の推進

- ・今後も当分の間は医師不足の状況が継続すると思われまます。医師の軽減策に具体的に取り組む必要があります。
- ・病院内のあらゆる分野において、チーム医療の推進が求められ、その必要性が高まっています。

### （5）医療スタッフの確保と育成

- ・少子高齢化の進展に伴い、医師に限らずいずれの職種においても優秀な人材の確保は更に困難になることが予測されます。
- ・医師、薬剤師及び看護師をはじめとする医療スタッフの確保により一層努力する必要があります。
- ・飛躍的に進歩する医療と多様化する患者のニーズに対応するため、絶えず人材の育成と教育に取り組まなければなりません。

### （6）患者の高齢化及び認知症患者の対応

- ・患者の高齢化に伴い、合併症や感染等の対策を更に徹底する必要があります。
- ・安全面においても、更なる徹底が求められます。
- ・認知症を抱える患者も増加することが予測されることから、認知症疾患医療センター、地域包括支援センター及び介護施設等との連携強化が求められます。また、認知症患者の対応に関して、関係スタッフの教育と研修を充実させる必要があります。

### （7）医療情報ネットワーク（電子化）の充実と効果的利用の推進

- ・上記（2）の対応のためにも、村山地域医療情報ネットワーク（べにばなネット）を効果的に活用する必要があります。
- ・べにばなネットの機能を有効に活用するためにも、院内医療情報ネットワークの充実と安定稼働の維持に努めなければなりません。

(8) 医療機器、設備及び施設の整備

- ・CT、MRI等の高額な医療機器をはじめ、各種機器及び設備等を定期的に更新する必要があります。
- ・当院の全面改築工事から今年で22年を経過したため、施設の経年劣化が進んでおり、その修理・改修等を要する箇所が多くなっています。

(9) 病院改築の将来構想

- ・全面改築工事から22年が経過しました。概ね30から35年での建て替えを計画した場合、次期の病院改築の基本構想の検討を開始する時期にあります。
- ・当該地域医療構想を踏まえ、当院の将来構想と改築計画を取り進める必要があります。合わせて、地域においてその計画に関する合意を得なければなりません。

### 第3 今後の方針

#### 1 地域において今後担うべき役割

これまで当院は、地域医療への貢献に努め、山形市鈴川地区をはじめとする村山地域の住民に対し医療の提供をおこなってきました。

今後においても、病院理念「心温かい 信頼の医療」のもと、地域医療を担う病院として、他の関係機関と連携を図りながら、信頼される良質な医療の提供に努めいく方針です。なお、地域の中で当院が担うべき具体的な役割は次のとおりです。

- (1) 当院は地域医療を担う中核病院の一つとして、現状の診療体制を維持し、急性期医療の提供を基本とします。
- (2) 上記(1)の医療提供に併せ、将来的に推計される医療需要及び機能別病床の必要量に対応するため、一部の病床で回復期医療の提供をおこない、急性期から回復期まで適時適切な医療の提供に努めます。
- (3) 全診療科において、地域の他の医療機関等と連携し、急性期または回復期の分野で地域医療に貢献します。なお、当院が対応する政策医療（5疾病5事業）への取り組みは次のとおりです。

- ・ 5 疾 病 : がん（消化器系がん、乳がん、肺がん等の急性期医療又は疼痛に対する緩和ケア等の療養支援）  
脳卒中（回復期、維持期）  
急性心筋梗塞（急性期、回復期）  
糖尿病（初期安定期、専門治療、慢性合併症治療）
- ・ 5 事 業 : 救急医療（2次救急、入院救急医療、初期救急医療、救命期後医療）  
災害時医療（災害中長期の応援派遣、受入対応、他）

- (4) 当院の主要診療科である整形外科においては、専門性の高い医療の提供を継続し、地域にける脊椎脊髄治療の中心的役割を担います。
- (5) 地域の関係機関等との機能分担と連携強化を図り、地域完結型医療並びに地域包括ケアシステムの推進・構築に貢献します。
- (6) 地域住民に対する予防医学・啓発活動に積極的に取り組み、地域住民の健康維持と増進に貢献します。

#### 2 今後持つべき病床機能

当院としての基本的な方針は、現状の診療体制並びに医療提供機能を維持し、急性期医療の提供を継続する計画です。しかし、今後見込まれる医療需要の推移や上記1「地域において今後担うべき役割」等を踏まえ、当院が持つべき適正な病床のあり方を検討し、適切に判断する必要があります。

今後より一層、地域の関係機関等との機能分担と連携強化を図り、地域完結型医療並びに地域包括ケアシステムの推進・構築に寄与するために、当院の急性期病床の一部を回復期病床に機能転換することを具体的に検討する計画です。

### 3 その他見直すべき点

今後においても、継続して医療需要の推移等を的確に見極めながら、地域において当院が担うべき役割と持つべき病床機能を定期的に評価・検証していく必要があります。そして、必要に応じた見直しを実施し、適正な医療の提供に努めていく考えです。

回復機能への一部転換及び地域連携の強化のため、関係する施設設備等の整備を必要に応じ実施していく計画です。

## 第4 具体的な計画

### 1 4機能ごとの病床のあり方について

〈今後の方針〉

	現 在 (平成 28 年度病床機能報告)		将 来 (2025 年度)
高度急性期	0床	→	0床
急性期	252床 人間ドック 35床含む		195床 人間ドック 35床含む
回復期	0床		57床
慢性期	0床		0床
(合計)	252床		252床

- ・地域の中で不足することが見込まれる回復期機能を提供するため、6階病棟（地域包括ケア病棟）57床を急性期から回復期に機能の変更する計画です。
- ・病床機能の変更に伴い、今後必要に応じ、リハビリテーション体制の充実を図るための施設設備等の整備を計画します。
- ・地域の関係機関との連携体制と入退院支援体制の強化・充実を図るため、必要に応じ関係施設設備の整備を計画します。
- ・全面改築工事から現在で22年が経過しており、今後15年以内には次期の病院改築工事を実現したい考えです。そのためには、数年のうちに当該地域医療構想を踏まえた、当院の将来構想と改築計画を取りまとめる必要があります。



〈年次スケジュール〉

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017 年度	○地域医療構想調整会議へ本プランを提出・説明	○公的医療機関等 2025 プランの策定  ○急性期病床 57 床を回復期に機能変更	
2018 年度	○病床機能分化連携施設設備整備費補助金の申請	○回復期機能充実のための機器等の整備	
2019～2020 年度			
2021～2023 年度	○全面改築工事に関して、地域医療構想調整会議における合意形成に向けた調整	○全面改築工事基本計画の策定	
2025 年度			

2 診療科の見直しについて

現時点において、診療科は現状を維持する方針であり、特段の見直しは計画していません。

3 その他の数値目標について

将来的な医療提供及び経営に関する数値目標については、これまでの実績並びに将来計画等を基に、次のとおり設定します。

(1) 医療提供に関する項目

		数値目標	備考
病床稼働率		87.6%以上	1日平均190名
手術件数 (手術室使用)	全身麻酔	1,030件以上	H28年度実績の10%増
	その他	875件以上	〃
紹介率		60.0%以上	地域医療支援病院要件イ
逆紹介率		60.0%以上	地域医療支援病院要件ウ

(2) 経営に関する項目

	数値目標	備考
人件費率	52.0%以内	当院の第5期計画による
医業収益に占める 人材育成比率	概ね0.5%以上	調査研究費、図書費のH28 年度実績を基に推計

## 第5 その他

当院は地域医療を担う他、公立学校共済組合（教職員）の職域病院としての役割を担っており、山形県をはじめとする東北6県の公立学校教職員を対象にした健康管理事業（人間ドック、脳ドック、特定検診及び特定保健指導等）及びメンタルヘルス対策事業（メンタルヘルス相談及びストレスチェック等）を実施しています。

今後においても、職域病院として教職員の心身の健康維持と増進のために、健康管理事業及びメンタルヘルス対策事業等を継続して実施していく方針です。

そして、地域住民の健康維持と増進に貢献するために、当院が所有する人間ドック関係施設設備と、これまで数多くの健康管理業務を実施して得た技術やノウハウ等を有効に活用し、地域住民の健康維持と増進にこれまで以上に貢献するため、地域住民に対する予防医学・啓発活動への取り組み方法を検討していく必要があります。